＜2021年度 オリンピック･ムーブメント事業＞

JOCオリンピック教室

ー 実施報告書 ー

神奈川県 清川村立緑中学校

Olympic
Movement

公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育　体育分野」及び高等学校「科目　体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校３年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、ＪＯＣでは、中学校３年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校２年生を対象に、平成２３年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。ＪＯＣもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピアン）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピアンがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピアンが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成２９年３月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和３年４月

公益財団法人　日本オリンピック委員会

■目　　的　：　オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピアン自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。

■事 業 名　：　JOCオリンピック教室

■主　　催　：　公益財団法人日本オリンピック委員会

■後　　援　：　スポーツ庁

■協　　力　：　公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会

■対　　象　：　中学2年生

■講　　師　：　オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）　※派遣オリンピアンはJOCが選定

■期　　間　：　2021年4月～2022年3月　※原則、平日開催

■実施校数　：　80校程度

■実施方法　：　クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目　運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。

2コマ目　座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。

※学校の通常の授業時間に実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目　運動の時間 / 50分

オリンピアンの専門競技の技術指導(＝スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分) → 準備体操(10分) → 主運動(30分) → まとめ(5分)

自己紹介
学習内容の確認

準備体操

主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)

運動の時間のまとめ

2コマ目　座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピアンがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分) → オリンピックの価値を伝える(10分) → グループワーク(20分) → まとめ(10分)

学習内容の確認

写真・映像等を使用した
自己紹介

オリンピアン自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える

個人またはグループワークで
話し合った内容を発表

全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピアンによって変動する場合があります

●時間割について
・1クラスにつき、運動の時間＋座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■期　　日 ： 2021年10月22日(金)

■ク　ラ　ス ： 2年1組(26名)、視察：清川村立宮ヶ瀬中学校(2名)

■オリンピアン ： 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー)【出場オリンピック／ トリノ大会、バンクーバー大会】

■授業のながれ： 運動の時間 (3時限)

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操

・ボブスレー競技でトリノ2006冬季大会とバンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。写真を見せながらボブスレー競技を紹介し、今日のこの時間はとても貴重であること、せっかく会えたのだから楽しいと感じてほしいこと、その為には皆の協力が必要であることを話す。オリンピックシンボルや、オリンピックバリューについて説明し、準備運動に移る。
・準備運動としてラダートレーニングを実施。

○主運動 等

・主運動はトライリレーを実施、5班に分かれて縦に並び、前からうしろ、コーンを回って後ろから前へとボールを繋ぐ。
リスペクトの意味にはルールを守るという意味も含まれており、ルールをしっかりと守って取り組んでほしいと伝える。1回目実施後に結果発表を行い、1回目の中でやってみてわかったこと、距離やボールの投げ方等、班のメンバーで考えてほしいと伝え、3分間の作戦タイムを設ける。2回目実施終了後に結果発表を行い、1分間の作戦タイムを設ける。次が最後だから全力で取り組んでほししいと伝え、3回目を行う。

・皆自分の今できることを一生懸命チームの為に頑張っていたことがとても伝わってきたことがとてもよかったと伝え、生徒が感じたオリンピックバリューを質問、皆で話し合ったこと、全力で頑張り一人一人を尊重した等の意見が挙がった。
・日常生活の中で、オリンピックバリューはたくさん見つかるので、皆にも身近に感じてほしい。スポーツは選手だけではなく、周りに支えてくれている人や見てくれる人がいる。皆がいて成り立っていることをこの時間で覚えておいてほしいと伝え、授業終了。

■期　　日 ： 2021年10月22日(金)

■ク　ラ　ス ： 2年1組(26名)、視察：清川村立宮ヶ瀬中学校(2名)

■オリンピアン ： 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー)【出場オリンピック／ トリノ大会、バンクーバー大会】

■授業のながれ： 座学の時間 (4時限)

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える

・映像と写真、持参した競技用具を披露しながら競技の説明を行い、自身の体験に基づいたオリンピックバリューの説明に移る。
・怪我を負ったことで、本当の敵は他人ではなく自分であり、周りと比べるのではなく、自分に勝てるように常に全力で取り組むことが大切だと気付いた。
部活でも、試合に出られる人、出られない人がいるが、それぞれにできることはたくさんある。辛い時、ピンチの時にこそ学ぶことが多いと伝える。

○ 個人ワーク

・発問：自分が今できること・頑張っていることをオリンピックバリューに当てはめてかき出してみよう。
エクセレンス：「部活を全力で練習して試合に勝つ」「来月のテスト勉強を頑張る」等
フレンドシップ：「野球でキャッチャーと呼吸を合わせ、ストライクをとる」「チームワーク」等
リスペクト：「知らない人にも挨拶する」「周りの人に思いやりを持って接する」等

・今日は皆一生懸命授業に取り組んでくれていた。授業を通して、オリンピックバリューを少しでも感じてもらえたならとても嬉しい。オリンピックでは競技後の選手にインタビューが行われるが、選手はエクセレンス・フレンドシップ・リスペクトに繋がる言葉で答えている。人に言われたからではなく、自分が本当に感じてるからこそ出てくる言葉なので、来年2月に開催される北京2022冬季大会では、競技だけでなく選手のインタビューにも注目してみてほしい。東京2020大会は終わってしまったが、日本でオリンピックが開催されたことに誇りをもってほしいと伝え、授業終了。

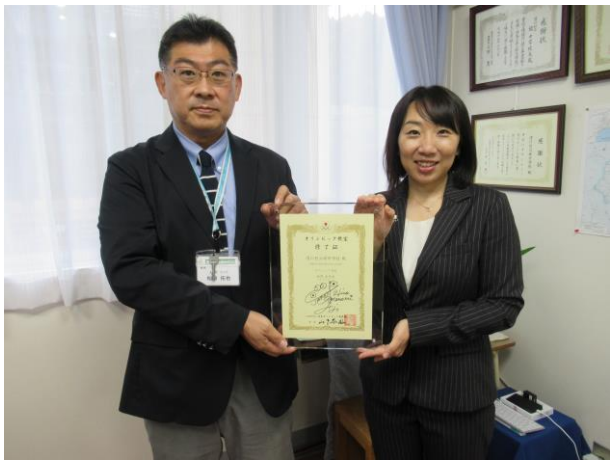
■集合写真

・2年1組

■記念品贈呈

・2年1組

■修了証贈呈



■視察：清川村立宮ヶ瀬中学校(2名)